

# ECONOMY TOPICS

## 経済トピックス

2018.7.31

No.452



### 業況 BSI 4 期ぶりに上昇 (2018年 4～6 月期の県内企業業況調査結果)

**調査内容** 2018年 4～6 月期の県内企業の業況実績  
2018年 7～9 月期の県内企業の業況見通し

**調査時期** 2018年 7 月上旬

**調査対象企業** 県内中堅企業 324 社

**回答企業** 227 社 (回収率:70.1%)

製造業 52 社 建設業 40 社 卸売業 53 社  
小売業 31 社 運輸業・サービス業 51 社

青森地区 85 社 津軽地区 62 社 県南地区 80 社

BSIとは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である  
指標の求め方は次の通り

BSI=「業況良好企業及びやや良好企業の割合」-「業況不振企業及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

# 1. 2018年4～6月期の業況

## (1) 業況 —製造業、卸売業、運輸・サービス業好転、4期ぶりに上昇—

2018年4～6月期の全産業「業況BSI」は前期比5.0ポイント上昇の△6.2と、マイナス圏ながら4期ぶりに上昇した。

業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合が同2.2ポイント増加の24.2%、業況悪化とした企業の割合は同2.8ポイント減少の30.4%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業が前期比5.0ポイント上昇の△13.5となった。食料品、化学、金属製品、精密機械、造船で好転割合が増加した。

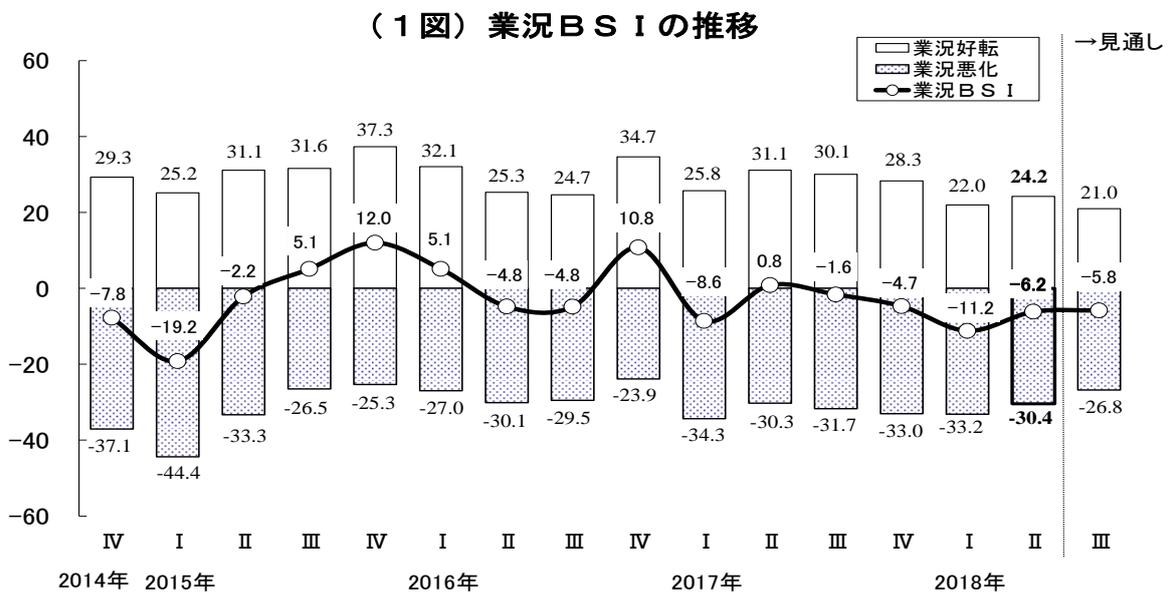
非製造業は、卸売業、運輸・サービス業が好転した。卸売業が前期比18.6ポイント上昇の△9.4、運輸・サービス業が同9.8ポ

イント上昇の9.8となった。一方、小売業は同13.8ポイント低下の△29.0、建設業は同2.7ポイント低下の5.0となった。

卸売業は、飲食料品、建築材料などで悪化割合が減少したほか、米穀、梱包資材、食品、紙などで好転が広がった。運輸・サービス業は、鉄道や宿泊で悪化割合が減少したほか、観光ツアー、ガス、冠婚葬祭で好転が広がった。一方、小売業は衣服と飲食料品で悪化が広がった。建設業は、総合工事で好転が広がったものの、職別工事と設備工事で悪化が広がった。

当期は、製造業、卸売業、運輸・サービス業が好転し、4期ぶりに上昇した。

(以上、1図、付表 参照)



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
2017年 4 - 6 月期	10.7	-9.8	-11.3	-2.8	12.7	0.8
7 - 9 月期	15.5	-7.1	-24.1	-17.1	15.8	-1.6
10 - 12 月期	-3.7	2.4	-28.0	-8.6	13.5	-4.7
2018年 1 - 3 月期	-18.5	7.7	-28.0	-15.2	0.0	-11.2
4 - 6 月期	-13.5	5.0	-9.4	-29.0	9.8	-6.2
来期見通し	0.0	-5.3	-11.5	-22.6	3.9	-5.8

## (2) 採算の状況 —「採算BSI」3期連続低下—

2018年4～6月期の全産業「採算BSI」は3期連続で低下し、前期比2.2ポイント低下の△11.9となった。

採算判断の内訳をみると、採算好転とした企業の割合は同2.9ポイント減少の7.3%、一方、採算悪化とした企業の割合は同0.6ポイント減少の△19.3%となった。

産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比1.2ポイント上昇の△11.8となった。飲料、生コンで悪化がみられたものの、鉄鋼や精密機械で好転がみられた。

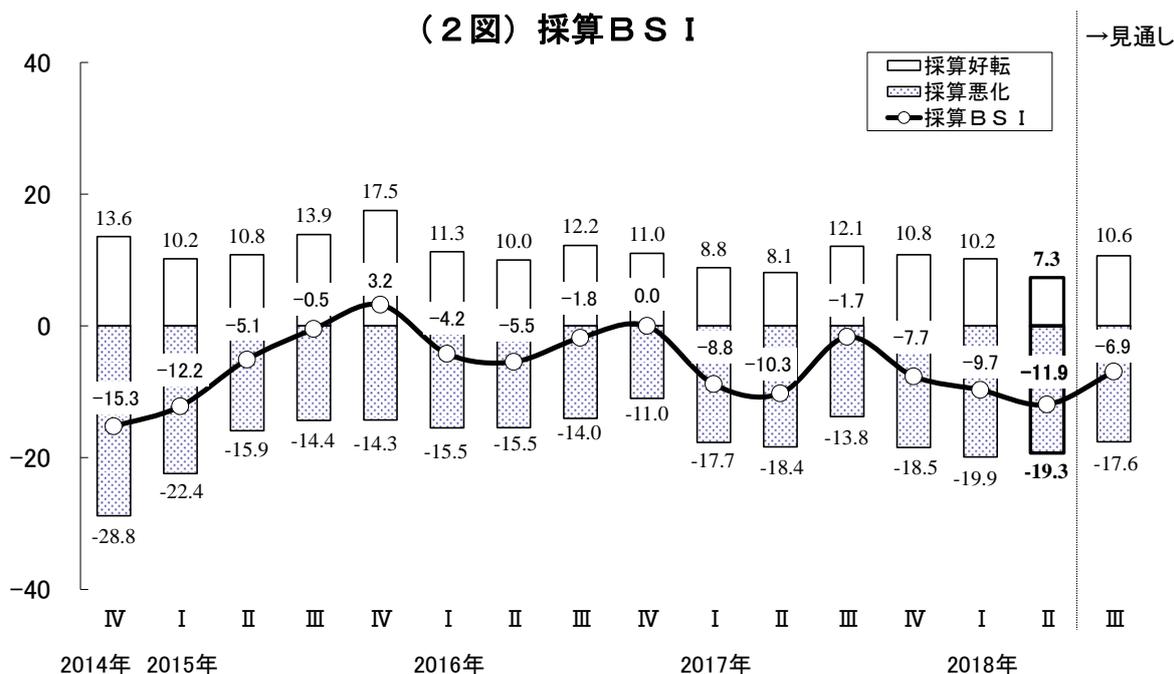
非製造業は、小売業、卸売業、建設業で悪化した。小売業が前期比7.9ポイント低下の△20.0、卸売業が同5.8ポイント低下の

△11.8、建設業が同2.3ポイント低下の△5.3となった。一方、運輸・サービス業は同0.5ポイント上昇の△12.5となった。

小売業は、自動車で好転割合が減少したほか、燃料で悪化がみられた。卸売業は、飲食料品、機械器具、米穀、水産物などで悪化が広がった。建設業は、総合工事と設備工事で悪化が幾分広がった。一方、運輸・サービス業は、宿泊、冠婚葬祭で好転がみられた。

当期の「採算BSI」は、小売業、卸売業、建設業が前期を下回り、3期連続して低下した。

(以上2図、付表参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
2017年 4 - 6 月期	-5.4	-10.3	-13.2	0.0	-19.2	-10.3
7 - 9 月期	1.7	-10.0	-9.6	2.9	5.5	-1.7
10 - 12 月期	-7.4	-5.0	-14.0	-3.1	-6.5	-7.7
2018年 1 - 3 月期	-13.0	-3.0	-6.0	-12.1	-13.0	-9.7
<b>4 - 6 月期</b>	<b>-11.8</b>	<b>-5.3</b>	<b>-11.8</b>	<b>-20.0</b>	<b>-12.5</b>	<b>-11.9</b>
来期見通し	0.0	-13.5	-3.9	-13.8	-8.3	-6.9

### (3) 生産高・操業度の状況 —「生産高 BSI」、「操業度 BSI」とも 3 期連続低下—

2018 年 4～6 月期の製造業の「生産高 BSI」は前期比 6.0 ポイント低下の△9.8 と、3 期連続で低下した。

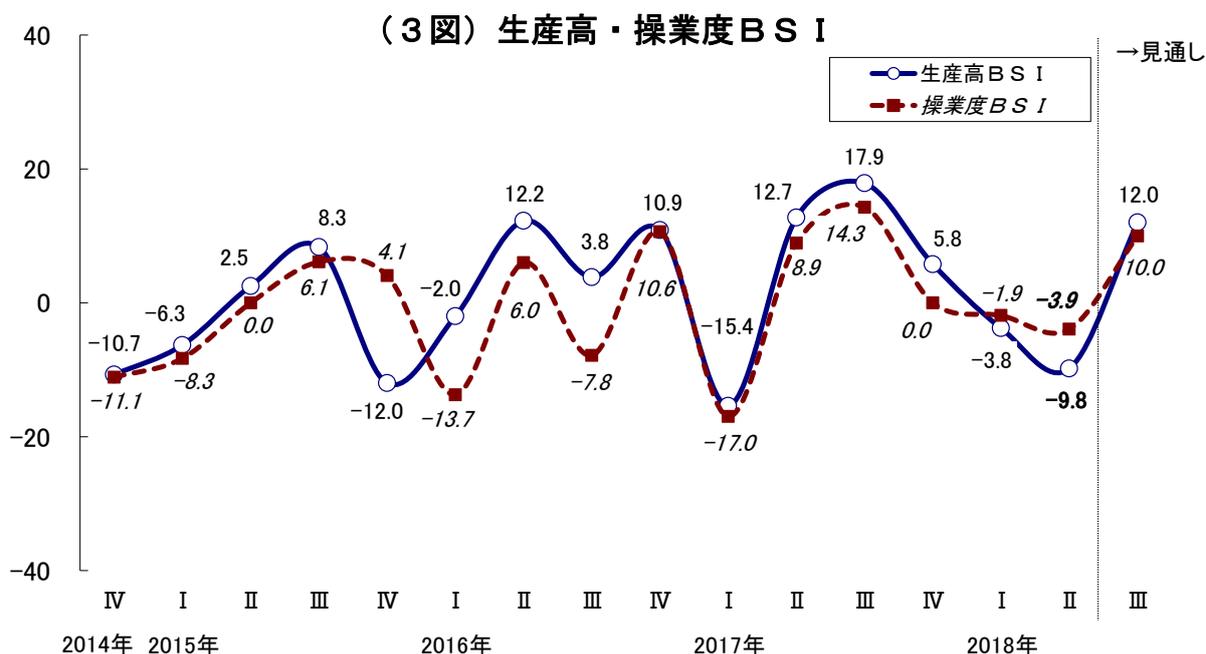
「操業度 BSI」は同 2.0 ポイント低下の△3.9 と、3 期連続で低下した。

飲料、衣服、生コン、一般機械、電子部品・デバイスで減産となった。

また、食料品、飲料、パルプ・紙、一般機械、電子部品・デバイスなどで稼働率が低下した。

来期は「生産高 BSI」が当期比 21.8 ポイント上昇の 12.0、「操業度 BSI」が同 13.9 ポイント上昇の 10.0 となる見通しである。

(以上、3 図 参照)



#### (4) 受注高の状況 —「受注高 BSI」再び低下—

2018年4～6月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比20.3ポイント低下の△7.5となり再び低下した。

内訳をみると、受注増加とした企業の割合が同1.8ポイント増加の30.0%、一方、受注減少とした企業の割合は同22.1ポイント増加の37.5%となった。

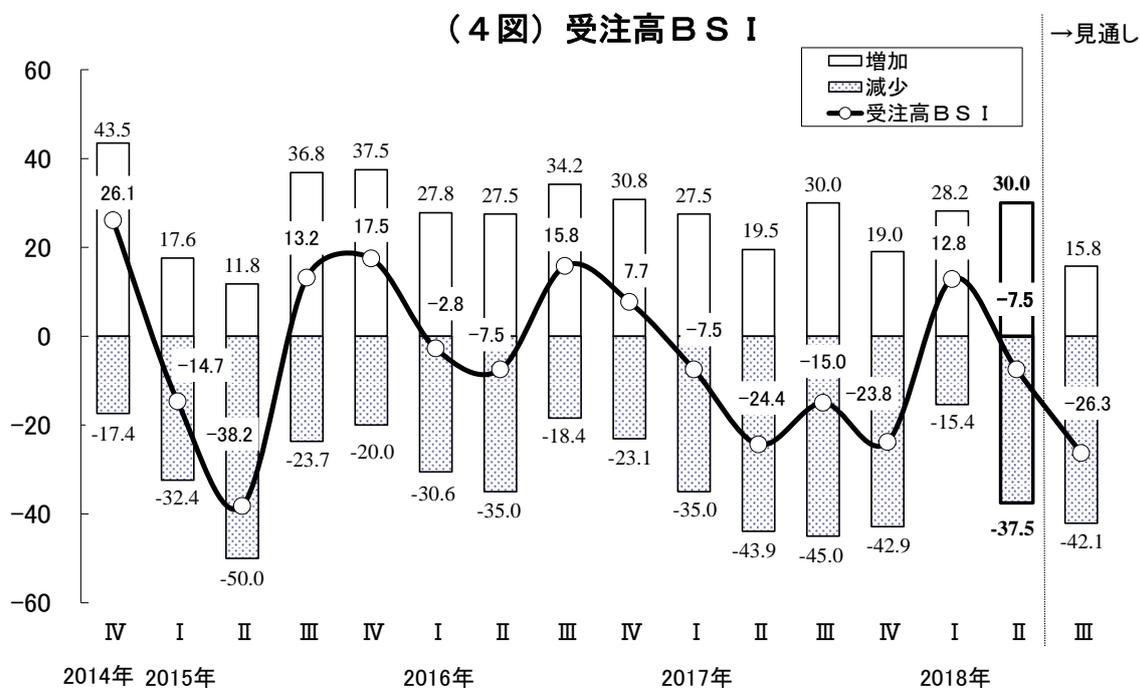
当期は、総合工事で受注減少割合が増

加したほか、職別工事、設備工事で受注増加割合が減少した。

来期の「受注高 BSI」は同18.8ポイント低下の△26.3となる見通しである。

内訳をみると、受注増加とする割合が当期比14.2ポイント減少の15.8%、受注減少とする割合が同4.6ポイント増加の42.1%と見込まれている。

(以上、4図 参照)



## (5) 売上高・出荷高の状況 —「売上高BSI」、「出荷高BSI」とも上昇—

2018年4～6月期の「売上高BSI」は、前期比1.5ポイント上昇の△12.6となり、3期ぶりに上昇した。

産業別の「売上高BSI」をみると、運輸・サービス業が前期比11.5ポイント上昇の5.9、卸売業が同7.6ポイント上昇の△18.9となった。一方、小売業は同22.9ポイント低下の△32.3となった。

運輸・サービス業は、道路貨物運送、ガス、宿泊、冠婚葬祭で売上の増加がみられたほか、鉄道では売上減少とする回答がみられなかった。卸売業は、建築材料、機械器具で売上の増加がみられた。一方、小売業は、衣料品、飲料、自動車、燃料、船舶機械などで減少した。

なお、来期の「売上高BSI」は、全体では

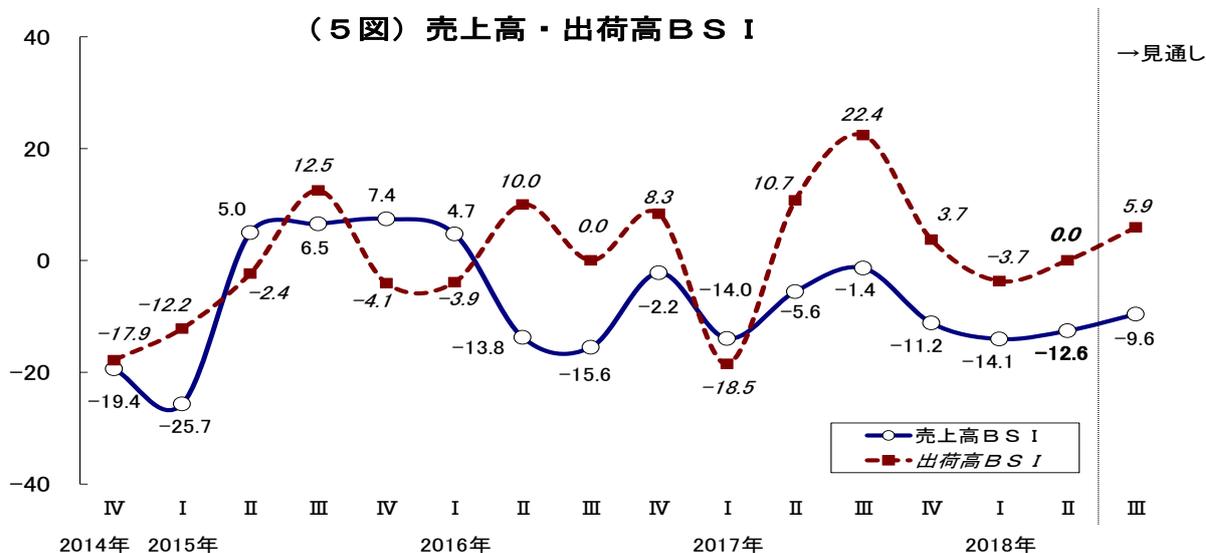
当期比3.0ポイント上昇の△9.6となる見通しである。小売業では、衣料品、自動車、燃料で増加が見込まれる。卸売業では、青果物、衣料品で増加が見込まれる。一方、運輸・サービス業では、道路貨物運送などで減少が見込まれる。

2018年4～6月期の「出荷高BSI」は前期比3.7ポイント上昇の0.0と3期ぶりに上昇した。

食料品、パルプ・紙、化学、生コン、鉄鋼、非鉄金属、金属製品などで出荷増加がみられた。

来期の「出荷高BSI」は、当期比5.9ポイント上昇の5.9となる見通しである。食料品と飲料などで出荷増加が見込まれる。

(以上、5図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI	売上高BSI			
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
2017年 4 - 6 月期	10.7	-15.1	-25.0	16.7	-5.6
7 - 9 月期	22.4	-14.8	-14.3	19.6	-1.4
10 - 12 月期	3.7	-22.4	-22.9	8.0	-11.2
2018年 1 - 3 月期	-3.7	-26.5	-9.4	-5.6	-14.1
4 - 6 月期	0.0	-18.9	-32.3	5.9	-12.6
来期見通し	5.9	-9.4	-16.1	-5.9	-9.6

## (6) 価格の状況—「仕入単価 BSI」と「販売単価 BSI」の乖離幅、7 期ぶりに縮小—

2018 年 4～6 月期の「仕入単価 BSI」は前期比 1.8 ポイント上昇の 42.4 となり、5 期連続で上昇した。

産業別にみると、製造業が同 10.4 ポイント上昇の 51.9、非製造業は同 2.1 ポイント低下の 38.1 となった。

製造業は、食料品、飲料、パルプ・紙、印刷、化学、生コン、鉄鋼、金属製品、一般機械、精密機械、造船など大半の業種で上昇がみられた。特に食料品で上昇割合の多さが際立った。

非製造業は、卸売業が前期比 7.1 ポイント低下の 44.0、建設業が同 1.5 ポイント低下の 23.5 となった。一方、小売業は同 3.4 ポイント上昇の 44.8 となった。

卸売業は、食品、水産物などで低下がみられた。建設業は、総合工事で低下の動きが一部みられた。一方、小売業は飲食料品で上昇がみられた。

2018 年 4～6 月期の「販売単価 BSI」は前期比 3.0 ポイント上昇の 11.6 と 5 期連続で上昇した。

産業別にみると、製造業が同 9.9 ポイント上昇の 11.8、非製造業は同 0.9 ポイント上

昇の 11.6 となった。

製造業は、飲料、パルプ・紙、生コンなどで販売単価の上昇がみられた。

非製造業は、運輸・サービス業が前期比 22.7 ポイント上昇の 20.8 となった。一方、建設業は同 15.0 ポイント低下の△12.1、小売業は同 9.1 ポイント低下の 6.5、卸売業は同 5.3 ポイント低下の 21.2 となった。

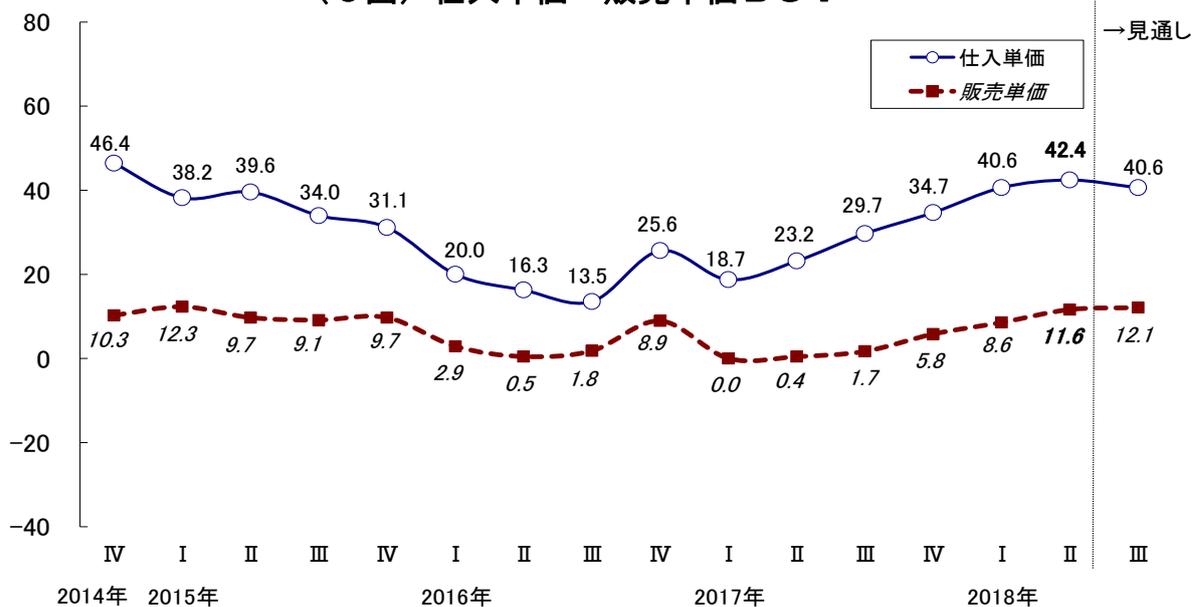
運輸・サービス業は、道路貨物運送、不動産賃貸などで上昇がみられた。一方、建設業は、総合工事、職別工事、設備工事のすべてで低下がみられた。小売業は、衣服、自動車で低下がみられた。卸売業は、食料品、機械器具などで低下が幾分みられた。

当期は、「仕入単価 BSI」と「販売単価 BSI」との乖離幅が 30.8 となり、前期の 32.0 を 1.2 下回り 7 期ぶりに縮小した。

なお、来期については、「仕入単価 BSI」が当期比 1.8 ポイント低下の 40.6、「販売単価 BSI」が同 0.5 ポイント上昇の 12.1 となり、両単価の乖離は 28.5 とさらに縮小する見通しである。

(以上、6 図、付表 参照)

(6 図) 仕入単価・販売単価 BSI



(付表) 仕入単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業	非製造業			仕入単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業	
2017年 4 - 6 月期	9.1	20.0	39.2	25.8	23.2
7 - 9 月期	40.4	12.8	32.1	27.3	29.7
10 - 12 月期	50.0	30.0	25.0	29.0	34.7
2018年 1 - 3 月期	41.5	25.0	51.1	41.4	40.6
<b>4 - 6 月期</b>	<b>51.9</b>	<b>23.5</b>	<b>44.0</b>	<b>44.8</b>	<b>42.4</b>
来期見通し	53.8	20.6	42.0	37.9	40.6

(付表) 販売単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業	非製造業				販売単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業	運輸・ サービス	
2017年 4 - 6 月期	-1.8	-5.4	13.5	2.8	-7.4	0.4
7 - 9 月期	1.8	-5.4	-1.9	20.0	-1.8	1.7
10 - 12 月期	3.8	-2.6	22.4	-2.9	4.2	5.8
2018年 1 - 3 月期	1.9	2.9	26.5	15.6	-1.9	8.6
<b>4 - 6 月期</b>	<b>11.8</b>	<b>-12.1</b>	<b>21.2</b>	<b>6.5</b>	<b>20.8</b>	<b>11.6</b>
来期見通し	13.7	-12.1	25.0	3.2	18.8	12.1

## (7) 在庫投資・在庫水準の状況 — 製造業積み増し、非製造業手控え —

2018年4～6月期の「在庫投資BSI」は、製造業が前期比1.9ポイント上昇の3.8、非製造業は同6.5ポイント低下の1.2となった。

製造業は、金属製品、電子部品・デバイスなどで手控えの動きがみられたものの、食料品、飲料で積み増しの動きがみられた。

非製造業では、卸売業では衣料品、飲食料品、建築材料など、小売業では、衣料品、家具などで手控えの動きがみられた。

来期の「在庫投資BSI」は、製造業が当期比7.7ポイント上昇の11.5、非製造業は

同5.0ポイント上昇の6.2と、それぞれ積み増しの動きが見込まれる。

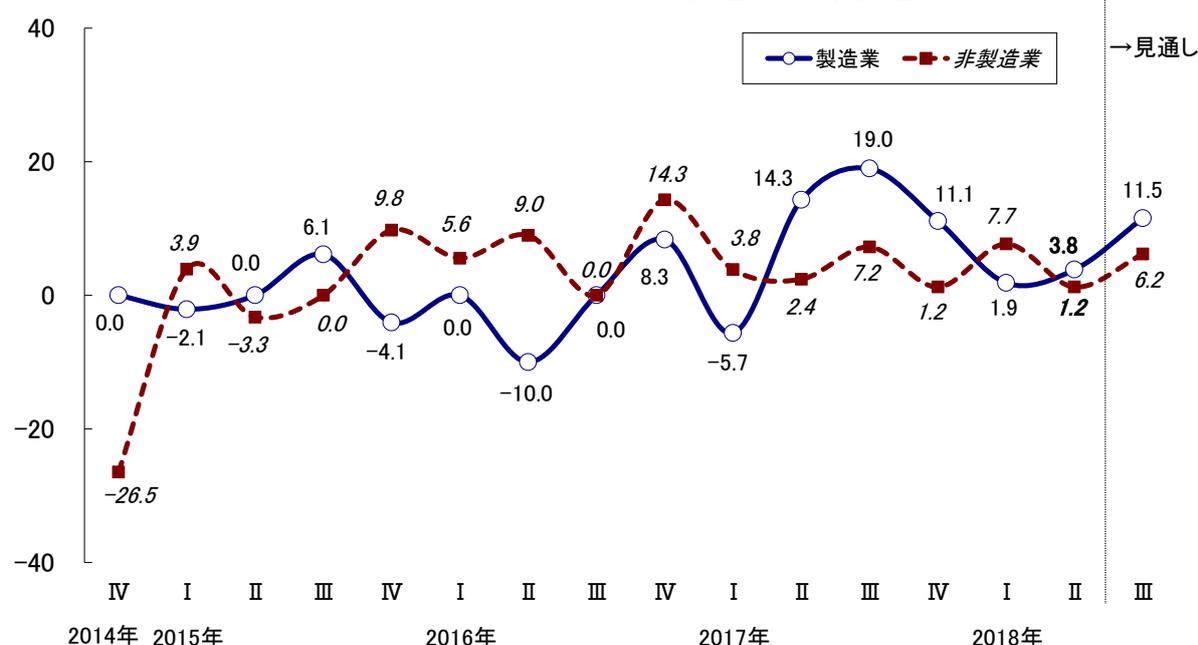
2018年4～6月期の「製品・商品在庫水準BSI」は、製造業が前期比9.3ポイント上昇の0.0、卸・小売業が同1.5ポイント低下の7.7となった。

製造業では、食料品と飲料で、非製造業では飲食料品で不足が幾分みられた。

来期は、製品では、食料品、飲料、鉄鋼などで、商品では、飲食料品などで不足感がみられるものの、ほぼ適正水準が見込まれる。

(以上、7図、付表 参照)

(7図) 在庫投資BSI (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	卸・小売業
2017年 4 - 6 月期	14.3	2.4	7.1	2.5
7 - 9 月期	19.0	7.2	-3.4	5.9
10 - 12 月期	11.1	1.2	-1.9	9.9
2018年 1 - 3 月期	1.9	7.7	-9.3	9.2
<b>4 - 6 月期</b>	<b>3.8</b>	<b>1.2</b>	<b>0.0</b>	<b>7.7</b>
来期見通し	11.5	6.2	3.9	0.0

## (8) 設備投資の動向 —製造業は上昇、非製造業は低下—

2018年4～6月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比7.9ポイント上昇の9.8、非製造業は同4.5ポイント低下の△4.5となった。製造業では、飲料、精密機械、造船が上昇した。非製造業では、建設業の総合工事、卸売業の建築材料などで低下した。

製造業は、食料品で賃貸用土地取得、鉄鋼で製造ライン増強、精密機械でプレス機増設などの動きがみられた。

非製造業をみると、建設業では、アパート新築などの投資がみられた。

卸売業では、建築材料で倉庫新設などの投資がみられた。

小売業ではスーパーで既存設備の維持・更新など、自動車でコンビニやU-Carセンター新築などの投資がみられた。

運輸・サービス業では道路貨物運送で車両購入、不動産賃貸業で店舗改装、冠婚

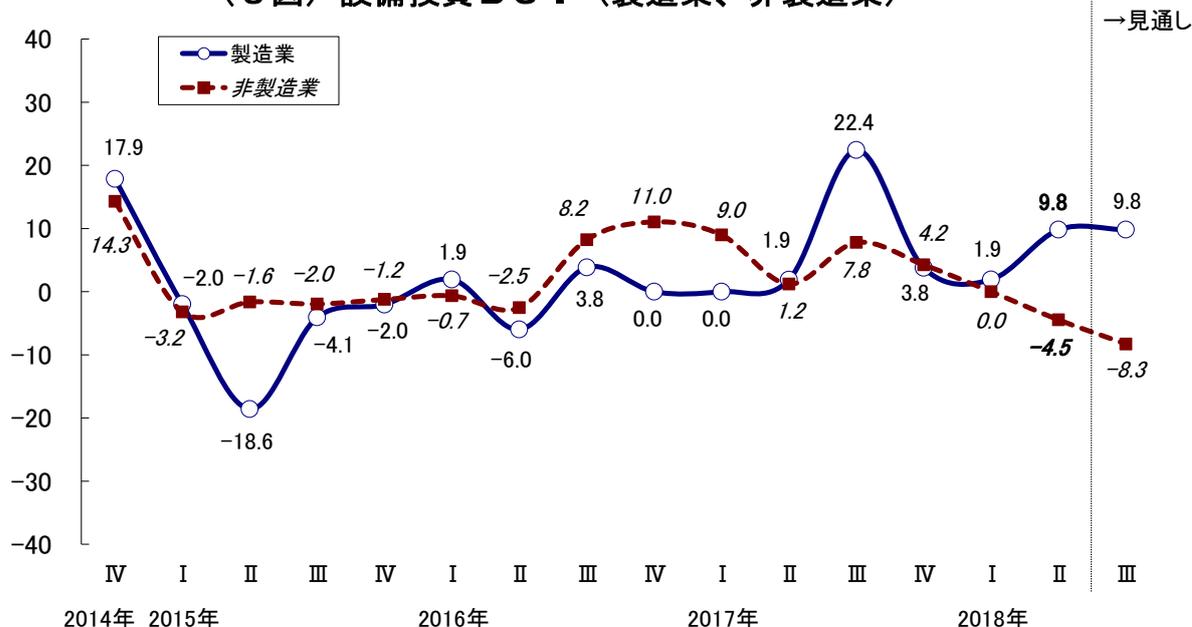
葬祭業で既存施設の改装等、ガスでガス管入替等の投資がみられた。

来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比横ばいの9.8、非製造業が同3.8ポイント低下の△8.3が見込まれている。

なお今後6カ月間では、食料品で製造設備、ユーティリティ設備、鶏卵の格付選別包装施設、りんご加工場移転新築、パルプ・紙で省エネルギー、化学で設備維持・更新、生コンで成型機、精密機械でメッキ装置増設、建設で車両購入、飲食料品卸で販売管理システムバージョンアップ、建築材料卸で土地・建物取得、スーパーで店舗改装や既存設備の維持・更新、自動車販売で店舗改装、道路貨物運送でショベルローダーや設備の維持・更新、ガスでガス管入れ替え、製造タンク増設などが予定されている。

(以上、8図 参照)

(8図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)

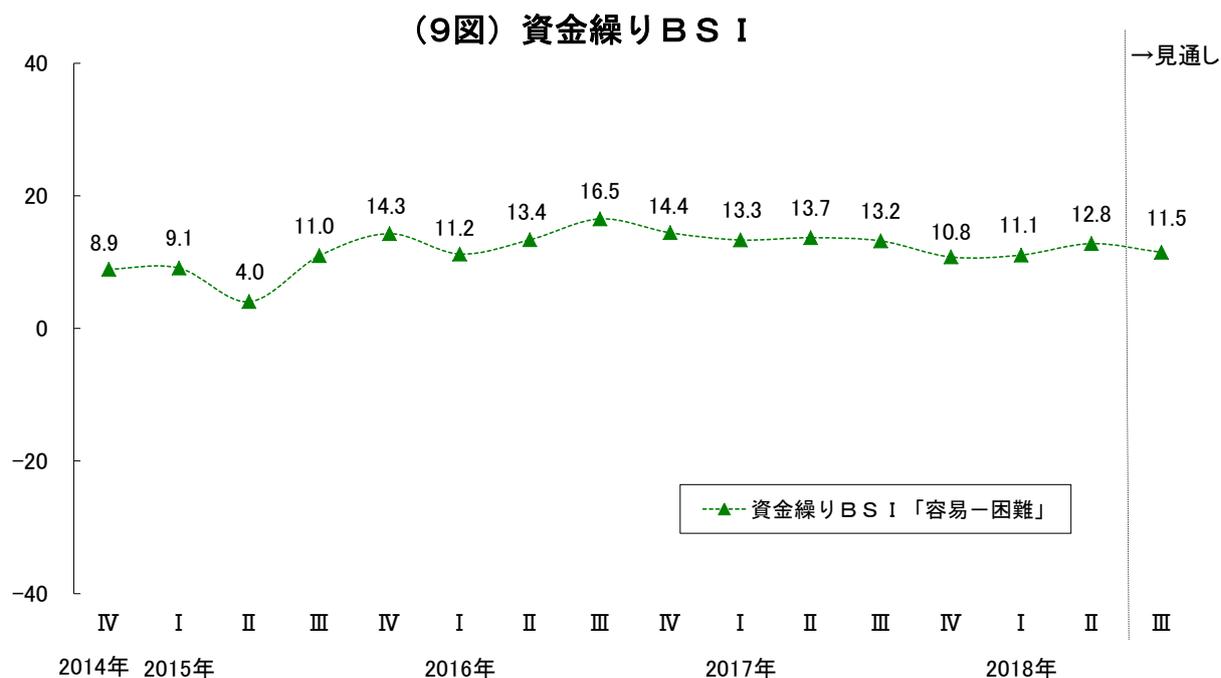


(9) 企業金融の動向 —資金繰りの容易さやや上昇—

2018年4～6月期の「資金繰りBSI」は前期比1.7ポイント上昇の12.8となり、手元資金の資金繰りの容易さがやや上昇した。

来期は当期比1.3ポイント低下の11.5となる見通しであるが、全体にはほぼ適正範囲内の動きが見込まれている。

(以上、9図、付表 参照)



(付表) 資金繰りBSIの推移

	資金繰りBSI (容易-困難)
2017年 4 - 6 月期	13.7
7 - 9 月期	13.2
10 - 12 月期	10.8
2018年 1 - 3 月期	11.1
<b>4 - 6 月期</b>	<b>12.8</b>
来期見通し	11.5

(10) 地区別の状況 —「業況BSI」県南、青森地区で上昇—

・青森地区

「業況BSI」が前期比2.4ポイント上昇の△4.7となった。そのほか「出荷高BSI」が同14.8ポイント低下の△23.1、「生産高BSI」が同0.6ポイント上昇の△7.7、「売上高BSI」が同横ばいの△15.8、「受注高BSI」が同3.6ポイント上昇の26.7、「設備投資BSI」が同11.9ポイント低下の△6.6などとなった。

・津軽地区

「業況BSI」が前期比2.9ポイント低下の△22.6となった。そのほか「出荷高BSI」が同17.9ポイント上昇の△15.4、

「売上高BSI」が同14.8ポイント上昇の△8.3、「受注高BSI」が同53.8ポイント低下の△53.8、「設備投資BSI」が同9.0ポイント低下の△14.3などとなった。

・県南地区

「業況BSI」が前期比13.6ポイント上昇の5.0となった。そのほか「生産高BSI」が同10.8ポイント低下の7.7、「出荷高BSI」が同4.4ポイント上昇の19.2、「売上高BSI」が同9.3ポイント低下の△11.9、「受注高BSI」が同14.3ポイント低下の0.0、「設備投資BSI」が同14.5ポイント上昇の14.5などとなった。（以上、1表参照）

(1表) 地域別BSIの推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
2017年 4－6月期	4.6	4.4	-5.8	14.3	46.2	-3.6	26.7	23.1	-3.6
7－9月期	0.0	-8.5	2.4	26.7	30.8	7.1	18.8	42.9	14.3
10－12月期	-4.7	-15.2	3.7	0.0	-7.1	14.8	-8.3	-13.3	18.5
2018年 1－3月期	-7.1	-19.7	-8.6	-8.3	-42.9	18.5	-8.3	-33.3	14.8
4－6月期	<b>-4.7</b>	<b>-22.6</b>	<b>5.0</b>	<b>-7.7</b>	<b>-50.0</b>	<b>7.7</b>	<b>-23.1</b>	<b>-15.4</b>	<b>19.2</b>
来期見通し	-10.6	-11.5	3.8	16.7	-8.3	19.2	0.0	-7.7	15.4
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
2017年 4－6月期	-7.0	0.0	-9.1	-13.3	-38.5	-23.1	9.3	12.1	1.9
7－9月期	-3.3	0.0	0.0	28.6	-28.6	-50.0	17.9	2.8	12.2
10－12月期	-20.7	-13.9	5.0	7.7	-37.5	-38.5	12.0	-2.8	4.1
2018年 1－3月期	-15.8	-23.1	-2.6	23.1	0.0	14.3	6.0	8.6	2.1
4－6月期	<b>-15.8</b>	<b>-8.3</b>	<b>-11.9</b>	<b>26.7</b>	<b>-53.8</b>	<b>0.0</b>	<b>9.8</b>	<b>-12.1</b>	<b>4.1</b>
来期見通し	-12.3	-2.8	-11.9	-20.0	-41.7	-18.2	13.7	3.0	6.1
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
2017年 4－6月期	-3.8	6.5	2.5	-8.2	-18.5	-6.0	14.3	4.6	20.0
7－9月期	10.7	25.0	1.3	2.3	-7.1	-1.2	14.9	6.1	17.1
10－12月期	6.3	3.2	2.6	-6.3	-14.1	-3.8	8.6	9.4	14.1
2018年 1－3月期	5.3	-5.3	0.0	-13.9	-8.2	-6.6	10.1	1.6	19.5
4－6月期	<b>-6.6</b>	<b>-14.3</b>	<b>14.5</b>	<b>-8.5</b>	<b>-22.0</b>	<b>-7.8</b>	<b>14.5</b>	<b>3.4</b>	<b>17.9</b>
来期見通し	2.7	-17.5	19.5	-3.7	-15.5	-3.9	13.3	3.5	15.4

## 2. 経営上の問題点

### —「競争の激化」が4期ぶりに最多—

経営上の問題点は、「競争の激化」が41.7%と4期ぶりに最多となった。3期連続で最多だった「人員不足」は、「売上・受注不振」と共に次点の40.8%だったほか、「人材育成・技術継承」が34.1%、「仕入単価上昇」が32.3%、「設備の老朽化」が27.8%、「収益低下」が22.9%などと続いた。

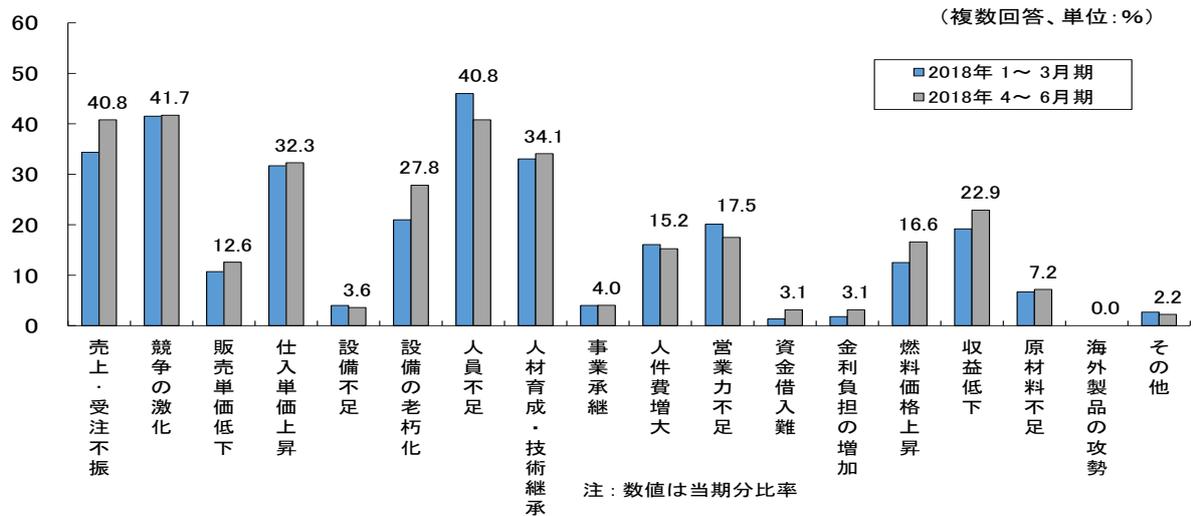
前期に比べて、「売上・受注不振」、「設備の老朽化」、「燃料価格上昇」、「収益低下」などが増加した一方、「人員不足」、「営業力不足」などの割合が減少した。

産業別に、トップにあげられた経営上

の問題点をみると、製造業では「売上不振」、建設業では「競争激化」、卸売業では「売上不振」、「競争激化」、小売業では「売上不振」、「競争激化」、「人員不足」、運輸・サービス業では「人員不足」があげられた。また、製造業では「仕入単価上昇」、建設業では「人員不足」と「人材育成・技術継承」、運輸・サービス業では「設備老朽化」の割合も高かった。なお、運輸業の「人員不足」は、前々期78.6%、前期68.8%だったが、今期は、57.1%となり、鎮静化傾向がみられる。

(以上、10図、付表 参照)

(10図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売単価低下	仕入単価上昇	人員不足	人材育成・技術継承	人件費増大	収益低下
2017年 4 - 6 月期	36.1	47.9	12.2	26.9	44.1	36.6	11.8	19.3
7 - 9 月期	31.8	38.4	11.8	26.5	42.0	31.8	13.1	18.8
10 - 12 月期	35.5	44.2	10.0	29.4	50.2	39.4	14.3	24.7
2018年 1 - 3 月期	34.4	41.5	10.7	31.7	46.0	33.0	16.1	19.2
4 - 6 月期	40.8	41.7	12.6	32.3	40.8	34.1	15.2	22.9

### 3. 来期の見通し

—「業況BSI」、 「採算BSI」とも上昇—

来期(2018年7~9月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比0.4ポイント上昇の△5.8となる見通しである。

産業別では、製造業が当期比13.5ポイント上昇の0.0、小売業が同6.4ポイント上昇の△22.6と見込まれる。一方、建設業は同10.3ポイント低下の△5.3、運輸・サービス業は同5.9ポイント低下の3.9、卸売業は同2.1ポイント低下の△11.5と見込まれる。

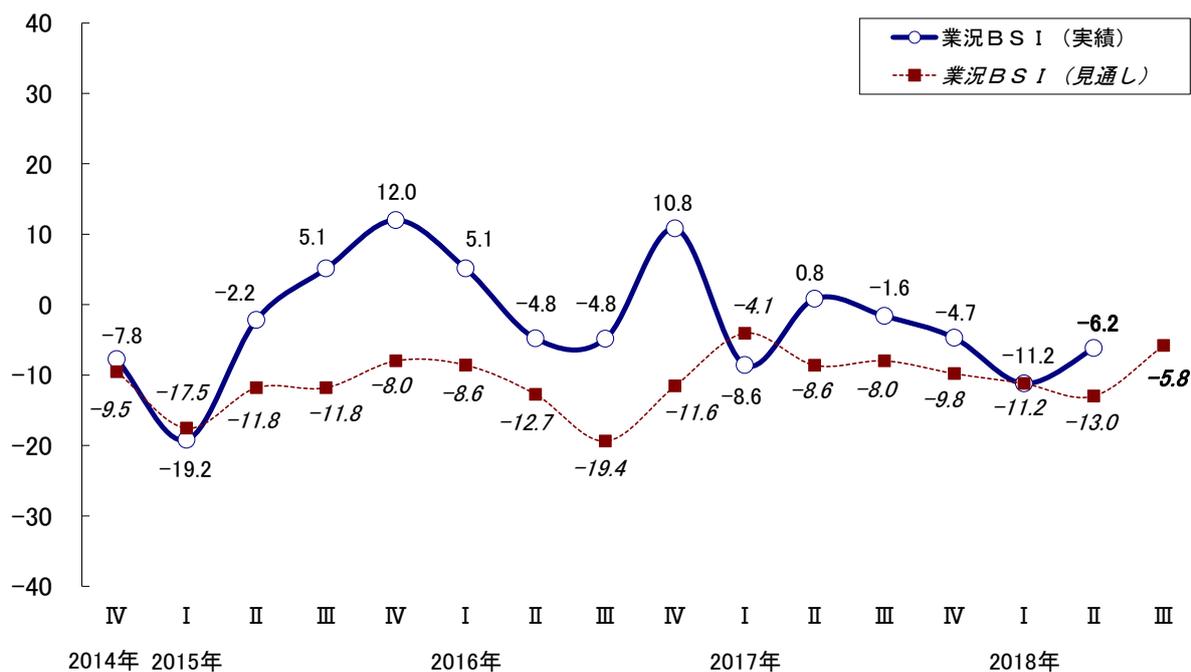
来期(2018年7~9月期)の「採算BSI」

は、全産業ベースで当期比5.0ポイント上昇の△6.9となる見通しである。

産業別にみると、製造業が当期比11.8ポイント上昇の0.0、卸売業が同7.9ポイント上昇の△3.9、小売業が同6.2ポイント上昇の△13.8、運輸・サービス業が同4.2ポイント上昇の△8.3となる見通しである。一方、建設業は同8.2ポイント低下の△13.5となる見通しである。

(以上、11図、付表 参照)

(11図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	2018年4-6月期	-13.5	5.0	-9.4	-29.0	9.8	-6.2
	来期見通し	0.0	-5.3	-11.5	-22.6	3.9	-5.8
採算BSI	2018年4-6月期	-11.8	-5.3	-11.8	-20.0	-12.5	-11.9
	来期見通し	0.0	-13.5	-3.9	-13.8	-8.3	-6.9